

平成 24 年度「ニホンジカ個体群保護管理」実施計画（案）

平成 23 年度に実施した糞粒法調査結果では、緊急対策地区の平均生息密度は目標生息密度である 10 頭/km²を下回ったが、調査結果には不確実な要因が反映されている懸念があり、また、依然としてシカによる植生への影響が確認されているため、引き続き個体数調整を実施することにより生息密度を 5 頭/km²に維持することを目指すとともに、植生保全対策を引き続き実施する必要がある。

【実施項目】

①個体数調整

- くくりわなを含む既存手法を用いた個体数調整の実施
（目標捕獲頭数：97（83～110）頭）

②植生保全対策

- 植生保全対策地点の決定、測量、施工
 - 区域保全対策
 - 単木保護対策

③生息環境の整備

- 森林の衰退を抑制し、森林の機能を有効に活かすために、周辺地域での関係機関等による森林整備地の取組と連携を図りつつ、森林保全に努めることとしている。そこで、大台ヶ原周辺地域におけるニホンジカ保護管理に関する関係機関間の情報共有とより広域的な視点での保護管理に向けた取組をすすめることを目的として、「大台ヶ原・大杉谷ニホンジカ保護管理連絡会議」を開催する。
- 森林保全対策のために必要な実務的な方法等については、大台ヶ原自然再生推進計画に基づく各種モニタリング調査等により、大台ヶ原自然再生推進計画評価委員会において検討を行う（ササ刈りによるシカの個体数、生息密度への影響の検討等）。

④モニタリング調査

- 植生状況調査
 - 植生調査（種別被度・群度）
 - 下層植生調査（全体の植被率、最大高、優占種、ササの桿高）
- 生息状況調査
 - 生息密度の把握（糞粒調査、ライトセンサス）
 - 行動域調査
 - 捕獲個体調査